

# バイオベンチャーサロン



## 生物工学バイオベンチャーサロン — 火の国で起こすバイオベンチャー —

福田 秀樹

平成15年度日本生物工学会大会の前日9月15日(月) 13:00～17:00; 熊本大学工学部キャンパスにて首記のベンチャーサロンを開催した。約50名の参加者を得た。このサロンは、ベンチャー企業を経営されている生物工学会員による講演会で、ベンチャー企業を盛り上げるとともに、学会会員によるベンチャー起業の意識を高めることを目的としている。各演者は、ベンチャー企業の特徴、設立時における困難な課題や対策など、幅広い体験談などの貴重な内容について詳細に判りやすく解説していただいた。

講演後のパネルディスカッションでは、産学連携のポイント、特許戦略、優秀な人材確保、ベンチャーキャピタルやインキュベーターの充実などの助成制度の問題など、についてホットな議論がなされた。尚、講演要旨については以下に記載する。

### 話題提供者および要旨

#### 1. Weekend-scientists-after retirement の能力を 新ビジネス創出に活かす—夢を叶える新たな仕組み—

大阪大学大学院工学研究科,  
グリーンゴールドバイオシステム(株)  
小林 昭雄

グリーンゴールドバイオシステム (GGBS) とは、起業したい人、実用化研究を続けたい人の夢を叶えるシステム、ベンチャー会社を作り出すシステム、社長を育て上げるシステムであり、GGBS社は、Scientistsの夢を叶えるためのプラットフォームを提供する会社である。大学人・若い会社役員・中堅の会社・ユニークなバイオ技術をもった韓国の会社を株主として2001年5月スタートした。日本のバイオ産業を活性化し、発展させるために今求められているものは、即決力、実行力が行使できるベンチャーの会社運営であり、GGBSシステムは、日本における社会的システムの短所を長所へと変え、いかにして未利用な(充分に使われていない)サイエンティス

トの能力を最大限に生かして行くかを熟考した末に産まれた新しいタイプのシステム提供会社である。

#### 2. 大規模遺伝子破壊マウス作製事業

(株)トランスジェニック 坂本 珠美, 井出 剛

(株)トランスジェニック(旧名:クマモト抗体研究所)は、「大学の技術資源の有効活用, 商品化, 特許化」を目的として、1998年4月に設立された。熊本県行政から投資, 融資などの支援を受け、その結果、熊本大学の先端技術である「特異抗体作製技術」ならびに「遺伝子破壊マウス作製技術」の技術を導入した。「ヒトゲノムプロジェクト」の最重点領域である「遺伝子の機能解析」分野において必須の研究素材である抗体ならびに遺伝子破壊マウスを大量にスピーディに供給することを目標としています。

特に、遺伝子破壊マウス分野は需要がきわめて大きく、ゲノム創薬分野では欠かせない素材で大規模な作製技術が必須となっております。また、当社は、これら技術の波及効果として、環境ホルモンなどの生物への影響を解析するキットの開発など環境科学技術へと展開しつつあります。

#### 3. 世界をリードするバイオベンチャーをめざして

アンジェスMG(株) 小谷 均

アンジェスMG (AnGes MG) は、1999年12月に大阪大学医学部発のキャンパスバイオベンチャーとして設立された。優れた国産技術をベースにした創薬の研究開発によるグローバルなベンチャーカンパニーを目指し、遺伝子治療薬の開発、核酸医薬の開発、およびDDS(ドラッグデリバリシステム)の3テーマを柱にしたビジネスモデルを構築した。現時点で、HGF遺伝子を用いた血管新生を目的とした臨床研究(日本:I/II), 臨床治験(USA:II)を展開している。さらに、転写因子である